

平成23年度 鈴鹿中学校・高等学校（6年制） 自己評価

	具体的な計画の目標・評価方法	評価	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価)[2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
教務部 (総務課)	授業確保と内容充実を考慮した学校行事の立案と、日々の円滑な日課の運営を行う	B	特定の曜日に連続して行事が入ることを避ける対応はできた。授業コマ数のアンバランスは避けられなかった	月日が固定されている行事の曜日を把握し、月日が決まっていない行事を抜けない曜日にできるだけ振り分ける
	諸会議(運営委員会・職員会議・学年主任会議)の議題整理を行い、定期的開催する	C	中間評価後も、拡大運営委員会と運営委員会の差別化がうまくできず、会議を機能的に運営することができなかった	拡大運営委員会(学年主任会議)については、議論が必要な議題を設定し、会議の開催時期を設定する
	ホームページの管理・更新を行い、スクールネットの効果的な運用を行う	B	定期的にHPの更新、スクールネットでの写真のUPなどを行った。HPの内容は事務的な連絡が多く、行事の報告は少なめだった。気付いた時点で随時修正しており最低限の情報は提供できた。	ホームページは学校の顔という面があるので複数の人員のチェックが必要。魅力ある学校をPRできるものを完成度の高いものをつくらなくてはならない。担当者のネット環境の改善は急務。
	メール配信の新システムへの登録を促し、緊急連絡時に備えた運用方法を確立する	B	<ul style="list-style-type: none"> ■新しく導入したメール配信システムをうまく活用できた ■全在校生宅(生徒か保護者)に登録を拡大することができなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ■在校生宅(生徒か保護者)・教職員の登録100%をめざす ■使用目的の拡充を検討する(PTA等の連絡にも使用するかどうか)
	入学試験がトラブル無く実施されるよう準備を行う	A	前年度の改善点などを活かして準備を行い、入学試験が滞りなく終了できた	今年度の総括を来年度へ送り、より円滑に入学試験が行われるよう準備を進める
	語学研修を成功させ、生徒の国際交流を推進する	B	<ul style="list-style-type: none"> ■現行の形で2回が終了し、業者との協力体制も機能し参加者も増加傾向にあり、行事として認知されつつある。 ■生徒の意識が期待に反していることも判明し、「限られた」仲間以外とのコミュニケーションの苦手さや公共のマナー意識の低さなどの課題が見えた。 ■担当教員数を再度検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■募集時より研修色を前面に出す事、コミュニケーション力アップやマナーについて考えさせる事前研修の実施へ。 ■次年度プログラムより、事前研修時からの業者主導体制への方向転換し、引率教員は1名体制に変更へ。
教務部 (教務課)	ベル授業を推進して授業時間の確保を行い、振り替えを行うことで自習を極力少なくする	B	<ul style="list-style-type: none"> ■突然の自習への対応は不十分だったが、自習を回避するための時間割変更を可能な限り行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒に時間に対する意識を持たせる(特に移動教室後の授業) ■事前に分かっている出張・年休などは、できる限り早く時間割担当者へ連絡をし、緊急時に備えた自習課題の準備を徹底する
	新しい成績処理システムにより迅速な成績入力・通知表作成を行う	B	<ul style="list-style-type: none"> ■1学期から「通知票」の作成・プリントアウトがパソコンでできるようになった。 ■三年制で使われているシステムの導入については、準備中の段階である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■高等部選択者の入力ミスを防ぐ対策を考える ■三年制の成績処理システム導入を、三年制との打ち合わせを重ねて進める
	履修や定期考査・評価にかかわる教務内規の整備を行う	C	高等部の評価に関して一部見直しを行ったのみだった	評価に関する他校の内規等も参考にし、改訂すべき点を挙げて作業を進める
	公募等について、保管期間を確認して整理・保管・廃棄する	C	<ul style="list-style-type: none"> ■出席簿・環境調査書・表紙・学級日誌等の発注は良好であった ■定期テスト問題の保管・管理や出席簿チェックなど、公簿等の整理・保管・廃棄についての作業効率を上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ■公簿類の発注は、年度の終わりまでに行い、事務部との綿密な打ち合わせが必要 ■定期的に点検・整理を行うシステムとして、まず教務部担当者が自分の学年についての節目での確認を怠らざら行う
	備品等の重複発注を避けるとともに、用紙類の節約に努める	B	<ul style="list-style-type: none"> ■印刷機・コピー機の故障に対して迅速な対応ができた ■備品の管理・供給は概ね良好であったが、コピー機・印刷機付近の整理整頓の奨励を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■印刷枚数の無駄を省く運動を展開する ■印刷機・コピー機の連写機能などを活用するなど、印刷枚数減を推進する ■中等部各クラスの貴重品袋を揃えることが望まれる(24個) ■用紙の放置等を無くする等マナー向上を訴え、共用ス

人権教育・教育相談	人権アンケートの設問を吟味し、学級集団づくりに役立てられるように集計結果を取り扱う	B	◆年度初めのアンケート結果は年度中期頃までは、生徒把握に役立つ所があったが、年度後期には実情に合わない面が多くなかえあまり活用できなかった。 ◆内容の変更を次回に行いたい。生徒にとって同じものをやらされるマンネリ感があつたかもしれない。	アンケートの内容は全面的に変更していく。その際スクールカウンセラーの意見も聞いて教育相談的な内容を加え、今の現状にあい生徒一人ひとりをもっと丁寧に見ることが出来るものにしていく。
	「人権だより」を定期的に年間6回発行する 「教育相談だより」を年間3回発行する	C	人権だよりは発行はできなかった。教育相談通信の発行は3回行った。	引き継ぎや全体像の把握がうまくいかず、(特に3年制の担当者は担任業務が多忙の為)なかなか足並みを揃えて行動することができなかった。次年度は事前準備をしっかり行いもう少し協力できるようにしたい。
	年間6回の人権ゼミナールを企画し、毎回教職員40名の参加をめざす	B	充実した内容の校内ゼミナールを3回と校外人権フィールドワークを1回実施した。(3回目のゼミナールはフィールドワーク内で行った)中高合同での開催時期の設定が難しく参加者数は目標よりやや少なめ。	6・3年制合同のため開催のタイミングが難しいので、回数を減らし年度当初に時期や内容をもっと計画に考えていく。それと別々に開催することも検討していく。
	教育相談を充実させ、不登校生徒、教室に入れない生徒への関わりを強める	A	教育相談担当者がカウンセラーと学級担任、学年団に対するコーディネーターとしての役割を強め、調整役にまわったことで昨年度よりも連携がとれた。カウンセラーの負担を減らし業務に専念してもらえるようになった。	今年度最も力を注いだ所で、人権室登校の生徒との関わりだけでなく、教育相談担当者のコーディネーターとしての役割を強め、調整役にまわったことで昨年度よりも関係者との連携がとれた。今まで情報不足だったカウンセラーの負担も減り業務に専念してもらえるようになった。校外での研修も年間通して多くの事を学んだので次年度からも生かしていきたい。
	生徒会人権委員会の活性化をはかる	A	前期は人権ポスター制作を全クラスで行い。ポスターを通じた人権啓発活動を行った。委員長が活発に働き鈴青祭・文化の部ではパーテーション掲示も行った。後期は各クラス人権委員が推薦する人権関連本の紹介誌を発行した。	年間の限られた時間の中で人権啓発活動を行うのは難しい面があるが、計画的に活動内容の説明と準備を行えば生徒は動いてくれる。できる範囲であればもっと活動したいと思う生徒も多くおり、これからも本年度の活動をベースに続けていきたい。
「子ども人権フォーラムすずか」など、他団体、他機関の活動に学ぶ機会を活用する	B	人権フォーラムすずかに2年生5名を引率し参加した。部落問題についての知識が不足していたため、当日行われた交流会ではそれぞれが思いを語りあい充実したフォーラムになった。	人権フォーラムすずかは私立学校の参加は本校だけでなく、他の公立校とまったく同じような活動はできないが、途切れることのないように連携をしていきたい。次年度フォーラム参加者には事前学習をしっかり行いたい。	

生活指導部	登校時間を守らせる	B	全体的に多すぎる。特定の生徒や学年に偏ったりした。親の車利用者の遅刻も多かった。	遅刻常習者への徹底指導
	下校時間の厳守	B	下校5分前の見回りをした。中等部は良好。	分担しての声かけ。クラブ間で違う。
	ベル授業指導	A	教科の先生方も早いし概ね良好。遅刻届など厳しく対処している。。	移動教室(特に体育)の他はほぼできるようになってきている。学年全体で取り組む課題
	正門での週1回の学年指導	A	良好。	挨拶に力を入れたい。ぎりぎり登校する生徒をなくす。
	月1回の一斉登校指導	A	挨拶を意識的にして取り組めた。安全指導に重点を置いた。	月1回では足りない。服装指導を強化。
	身なり・服装指導	B	高学年からの影響が着くずしが見られる。	高等部で自由化された以上、中等部はより徹底させたい。教員の共通理解、意識が必要。生徒部長がもっと目を光らせて、各学年にアプローチする。学年間の意識統一。
	清掃活動の指導点検	A	担当箇所が複数あり手薄になりがちであった。1学年は持ち場役割をしっかりと把握し活動に打ち込むことができた。	総括担当の必要性。
	防災・防火・避難訓練	B	3年制と連携して実施する予定が天候不良で縮小された	「危機管理マニュアル」を作成し教員の意識統一が必要
	校外補導	A	良好。	大型ショッピングセンターなど適宜見回ることが必要である。
	生徒会	A	役員たちは、挨拶運動など積極的に取り組んでいる。いろいろと相談しあいがんばってくれた。	生徒会役員の話をしっかり聞いていきたい

進路指導部	難関大への意識づけとして、学校実施以外の模試の取扱い	A	積極的に紹介や勧誘をし、多くの受験者を集めることができた。模試によっては50名近くの受験者がでるなど、上位集団の形成に有効活用ができた。受験するだけで終わらず、先につながるような指導を心がけたい。	難関大の合格実績を上げていくには、低学年次から高い意識を持った集団作りが必要。高い目標設定は進路意識の向上にもつながる。低学年でこそ積極的にハイレベル模試の紹介や勧誘をし、受験者の数を増やしていき、学年を引っ張って行く集団を形成していきたい。あわせて、受験するだけで終わるのではなく、結果の有効活用を促進したい。
	中等部3年間の進路指導の流れと進路学習教材「進路ノート」の活用法の確立	A	進路シラバスを作成したおかげで、年間を通じて計画的に進路ノートを活用することができた。また、進路ノートを他の教材や資料とリンクさせ、グループでの職業調べや個人別の学問・職業調べを行うなど、より効果的な授業を考え実践した。	進路HRや道徳の充実、新学期スタート時の学級づくりに多く活用できるので次年度以降も継続使用していく。単元を組み合わせたり、資料を付けないとノートだけでは授業をしづらい部分があったり、2年と3年の内容で重なっている部分(仕事調べ等)があるのでシラバスの細かな修正をしながら更なる有効活用の方法を考えていく。
	職業体験・インターンシップ(キャリア教育)の充実	B	中3春の校外研修のトヨタテクノミュージアム・名古屋大学訪問は大きなトラブルもなく終了。名大の時間設定と内容設定にやや課題が残ったが、大学側の都合もあり調整は難しい面もあった。昨年度から実施している2年生での工場見学(ホンダ技研鈴鹿)は今年度も継続実施した。	生徒が外部と接する機会を増やし、仕事を実際に体験できる場をたくさん提供できればよいが、現状を考えるとインターンシップの企画・立案・実施はかなり難しい。今後インターンシップを実施を検討していくならば、専属の担当者が1人必要ではないか。2年生での「ホンダ技研」訪問の様な形式で、他学年でも職場訪問などはできるだけ積極的に企画し実施していきたい。
	大学入試に向けたモチベーションアップのための取り組み	A	4年生は4月のオリエンテーションで「志望校宣言」を実施。7月には4・5年生を対象とした外部講師による進路講話を実施したり、頻繁に各学年で進路についての集会を実施するなど積極的に取り組めた。また、3年生では2学期から三重大の出前授業を継続的に実施したり、12月には東大の出前授業を実施したことで大学での学びを身近に感じられる生徒が増えてきた。	やはり低学年次からの意識付けが重要。今年度より実施した中3の名大訪問と京大訪問は、生徒の反応も良く、かなりの効果があったと思われるので、低学年次からの意識付けのためにも次年度以降もぜひ実施していきたい。外部講師による進路講話、学年集会についても精力的に実施したい。出前授業についても、大学での学びを身近に感じ、進路意識の向上にもつながるので予算との兼ね合いもあるが、次年度も計画的に実施していきたい。
	各大学の推薦・AO入試内容の検討と効果的な使用法の検証	B	今年度の国公立大学の推薦・AOについては、合計で7名合格という結果を残すことができた。これらの合格者は一般入試での合格は厳しい生徒が大半であった。センター試験後に出願の国公立推薦入試はやはりセンターでの点数がボーダーをかなり超えていないと合格するのは厳しい。	次年度も見極めをしっかりと、特に国公立大学を中心に推薦・AO入試の有効利用をしていきたい。反面、推薦・AO入試に流れて一般入試で勝負する生徒が減り過ぎるのも危険であり、合格後の指導も難しいのであまりオープンにも動けないので、そのさじ加減が難しい。また、全国的な流れも考慮して推薦内規の見直しも検討していく。
	夏期講座・冬期講座実施形態の検討	B	夏期講座は4日間×4タームの計16日間、冬期講座は3日間×1タームの計3日間ともに大きな問題もなく終了。中部では夏期講座前半や冬期講座で各学年各教科で必要に応じてハイレベル講座や追指導講座を実施したが、全員必修のスタイルよりもこちらのほうが効果的であるとの意見が多かった。夏期講座・冬期講座ともに1カ月前に第1案を作成できた。	6年生で実施しているように、各学年ともに夏期講座は各予備校の夏期講座の申し込みとの兼ね合いもあるので、早い時期に(6月中旬までに)講座内容など生徒に知らせた方がよい。コマがあるからとりあえず何かする、授業を進めるといふ意識を教科担当者が変える必要がある。教科単位でより効果的な講座になるように実施内容の検討をして欲しい。
	2012年度センター試験科目変更・新課程に関する情報収集と対策の検討	A	2012年度センター変更についてはカリキュラム変更で対応した。地歴・公民についてはどうなっても対応できるように、できるだけ4単位科目を選択させた。理系の倫理+政経(公民4単位科目)選択希望者の扱いにやや不安はあったが、各学年ともに大きな混乱なく科目選択を行うことができた。	次は新課程が目前に迫ってきており、大学入試も大きな変化をしていくと予想される。特に理科の取り扱いがどうなるか要注意。難関大の一部には、共通一次試験時代(外+数+国+理2+社2=1000点満点)に戻そうとの思惑もある。さまざまな変化に迅速に対応できるよう、次年度以降も積極的な情報収集を心がけたい。
	各模擬試験実施後の振り返りシートの活用	B	中部部、6年生は比較的スムーズに提出できた成績返却後かなり時間が経ってから提出される学年もあった。遅すぎでは意味がない。	模試結果の全体への報告、各教科担当者による分析はその後の指導を考える上でも重要。学年は分析結果から課題を確認し、教科担当者は分析シートを書くだけで終わらず次に活かせるように。各学年の進路担当者が積極的に教科担当者に働きかけ、成績返却後1週間を目途に全体に報告できるよう徹底していきたい。

広 報 部	学校案内・ポスター・願書	B	作成にあたり、例年よりも早めに作成準備を始めたが業者との校正のやり取りに時間がかかった。	説明会・入試日程に関わる調整後に本格的に開始する業務になるが、学校を見せる重要なツールであるので、今年度中に業者の選定を含めて始めてみる。費用対価も考慮しつつ、早めに準備をしていく。生徒作成のマップ等も取り入れてはどうかといった積極的な声も頂いているので、
	学校・入試説明会(本校)	B	6月・10月・11月の3回実施。2回目以降も講座体験。生徒会生徒による説明・学校案内など直接体験に関わる部分は非常に好評であった。直接体験によるプラスイメージは大きい。	一方的な説明PRに終始せず直接体験がしてもらえるようなイベントにしていく。4・5年生対象とした自由研究の講座(説明会とは別日程)等も実施していきたい。とにかく学校に来てもらう為の取り組み(新聞広告、チラシ、グッズなど)は同時に行っていく。
	塾訪問	B	実施(主に4・5月、8月・9月・10月)地域を考えて担当者も固定しつつある部分もあるが、効率的に回れるよう考えていきたい。	他校の塾周りに関わる差があった。より効果的な外回りになるようにしていかなければいけない。定期的な訪問(資料配布)だけでなく、受験生の情報収集と時期に応じた訪問(説明会前・面談・出願前など)それに個別に直接対応していく細やかさも必要。
	新聞広告等	B	毎日新聞2回・中日新聞2回(私学フェス広告含む)で説明会の案内などを行った。新聞広告を見て参加頂いた方もいるが、費用・内容を含めて3年制とより連携して効果を高めていきたい。	掲載時期と内容と目的を明確にして、費用対価も考えて実施していく。新聞社毎の企画も年によって様々ではあるので、3年制と協力して行っていきたい。
	私学フェスティバル	A	松阪・津・四日市で7・8月に愛知(名駅)で9月に実施。名張の塾主催の合同説明会にも参加した。今年度初めての試み。私学受験者の掘り起こしという点では重要なイベントで3年制とも協力しPRできる貴重な場であるので積極的に参加していく。	私学としての受験者の掘り起こしは必須と感じている。この部分では県内外問わず、私学の横の協力を強めていく必要がある。今年は試験的な取り組みの部分でもあったが、実施時期・会場等も含めて打ち合わせを綿密に行い効果的なイベントにしていく。
	説明会(塾対象)	B	今年度から学年主任・教科主任等にも参加いただいた。様々な場面で「見せる」ことは必要であると思う。本校の改革の説明は概ね理解を頂いているように思うので、途中経過・結果を報告し広報活動につなげるようにしていく。	教育方針、取り組みに関しては概ね理解は頂いて応援はしていただくが、データ、結果というものがついてこそとの厳しい意見(外の意見は内の認識よりもよりシビア)も頂く。送った生徒がどのように伸びているのかを報告する場でもあるので、取り組みの結果や途中経過も報告していく。
	説明会(各塾主催)	B	説明会同様、生徒により近い声はどの場面でも好評で今後も続けて協力を依頼していきたい。	塾の教室に出向き生徒対象の場合でも、学校のベルホールで保護者のみの場合でもより現場に近い声を届けると好評を頂ける。次年度以降も先生方に協力を依頼して進めていきたい。
	出版社・塾・アンケート	C	対応が遅れた場面が数多くあった。数が多いので協力を依頼する場面も必要。	事務的な処理であっても、個人での対応だと遅れが出る場面があった。資料など共有できる場面では今年度と同様、進路や3年制と協力してやっていきたい。
	入試業務	B	担当者の配置等がうまく機能しなかった。	入試問題、試験当日の受験生への対応や保護者への対応も大きな広報活動を担うものと改めて感じた。入試問題に関しては教科と、入試当日の対応については教務と連携し、外の声も積極的に伝えて次年度に反映していきたい。
	受験生増	C	児童数減、県内私学受験者減の現状はあるものの、本校の受験者減の要因の一つでしかない。その中で、選ばれる学校にする為の広報としてのPRの場面が取れていなかった。	戦略的な外回りと、効果的(費用対価を含む)なグッズ・ツールの開発、鈴鹿の"売り"を外に発信していく必要がある。受験生増加の可能性の糸は全て手繰りよせていきたい。結果を求められている現場であることを常に意識していきたい。
現場との連携	B	説明会での講座体験や、私学フェス参加など、新しい取り組みを広げた場面もあったが、外回りにおいて拠点の開発(習い事の教室など)も考えていきたい。広報活動だけが先走らないよう、逆に現場の取り組みも的確に外部に発信していく必要性があり、今年度同様全教職員の協力が必須。説明会等では例年以上に参加だけでなく高い意識をもって協力いただいている。	広報活動が先行して、現場にそれを求めるのではなく、現場発信のものを外に伝える認識でいたが、思うように内外のパイプ役を担えていない現状があった。学年懇談会も在校生保護者に対する大切な広報活動の一つと認識している。HR活動の資料を広報活動に役立ててください。といった積極的な声も頂いているので届ける努力を一層していきたい。また、広報部として戦略的な外回りが出来ていない反省がおおいにある。次年度は先生方の協力も頂きながら進めていく。	

集計用 学校評価(保護者対象)		満足度A	満足度B	満足度C
		そう思う	ややそう思わない	そう思わない
1. 強く思う 2. やや思う 3. ややそう思わない 4. そう思わない 5. わからない				
教育目標	1 建学の精神である「誠実で信頼される人に」の人間形成がはぐまれている	69	22	9
	2 学校の教育目標が保護者や生徒に明確に示されている	70	23	7
学校の特徴	3 「真の学力の養成」「たくましさの追求」「人間愛の重視」の方針のもと、自立した人間をめざしている	68	24	8
学習指導	4 6年間を通じて自ら進んで勉強する姿勢がはぐまれている	69	25	7
	5 知的好奇心を刺激して、本当の学力を身につける鈴鹿独自の教育スタイルが実践されている	65	28	7
	6 毎日中等部は朝の10分間読書で、一人ひとりの思考力、コミュニケーション能力、など学力向上のための基礎的な力をつけている。	66	27	7
	7 生徒の現状にあわせた学習進度で高校受験を意識せず6年間で幅広く学べる学習スタイルになっている	70	23	7
進路指導	8 道徳・人権学習の時間などを通して、いじめや差別をなくし、一人ひとりの人権や個性を大切にされた教育が進められている	68	24	8
	9 生徒一人ひとりが希望する進路が保障されている	54	29	17
	10 学年に応じた進路指導が充実している	63	24	13
	11 コース・科目選択の説明が十分になされている	59	27	13
生活指導	12 大学入試情報や入試の動向などがすみやかで適切に伝わっている	60	26	14
	13 生徒が基本的な生活習慣や社会のルールやマナーを身につけられるような指導が行われている	61	31	8
	14 一人ひとりの生徒の様子をいろいろな方法(中等部の日記、高等部の個別面談など)で常に把握し、悩みや相談に親身になってのってくれる	68	24	8
学校生活	15 生徒も教職員もよくあいさつができて感じがいい	77	18	4
	16 安全・安心な学校生活のために教職員は努力してくれている	82	14	4
	17 教職員は保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる	82	15	4
教育環境	18 鈴青祭・研修旅行・弁論大会・合唱コンクールなど学校行事が有意義に実施されている	84	12	4
	19 生徒にとって、安心・安全・快適な施設・設備である	80	16	4
家庭との連携	20 清掃が隅々までゆきとどききれいな学校である	67	28	5
	21 学校からの情報はスクールネットや通信等で十分に保護者に伝わっている	78	18	4
	22 家庭で子どもの友達関係や学校での様子など良く把握できている	74	20	5
満足度	23 PTA活動が活発で参加する意義がある	59	28	13
	24 生徒が毎日元気よく楽しそうに学校へ行っている	86	12	2
	25 子どもを入学させてよかった	80	15	5

※数値は、割合(%)